



北京大学



島根県立大学

THE SCHOOL OF INTERNATIONAL STUDIES PEKING UNIVERSITY
THE UNIVERSITY OF SHIMANE
JOINT SYMPOSIUM

北京大学国際関係学院・島根県立大学 合同国際シンポジウム

国際秩序をめぐる グローバルアクター中国の 「学習」と「実践」

～外交・内政の共振と歴史の視点から～

2016年3月5日(土) 9:30~17:50

島根県立大学 コンベンションホール

(浜田キャンパス 交流センター2F)

国際秩序をめぐるグローバル・アクター中国の「学習」と「実践」

～外交・内政の共振と歴史の視点から～

趣意書

近年、中国による「一帯一路」構想や「人類運命共同体」論（2015年国連総会での習近平主席演説）などが注目を集めている。改革開放路線が軌道に乗った1990年代半ば以降、多国間外交を通じてグローバル社会での振る舞いを模索した「学習期」を経て、21世紀の中国はどのような国際秩序観をもって外交実践を進めているのだろうか。例えば、近年、活発に展開されている周辺外交をヨーロッパとアメリカの間に位置する「ユーラシア・パワー」の実践とする議論もある。アメリカの「アジア回帰」、ロシアの中東攻勢、ISの衝撃、難民流入をめぐるヨーロッパの混乱など、流動化する国際情勢のなかで大国化した中国の地政学的戦略論を検討する重要性はいうまでもない。同時に、中国の実利的な対外戦略を支える観念的・理念的な国際秩序観、さらにはその源泉にある文明論的発想に着目し、その特徴と普遍性を検討することも欠かせない。

本シンポジウムは、国際秩序の変動期にグローバルなレベルで存在感を増す大国・中国をグローバル・アクターとして位置づけ、国際社会における「学習者」としての側面や大国的「外交実践」に着目することにより中国の国際秩序観を検討する。その際、対外政策構想を着実に実践するには、強固な国内政治的・経済的・社会的基盤や安定的なガバナンスが必要不可欠であることに鑑み、外交と内政の相互作用・共振性を検討することが必要であろう。また、東アジア国際関係史の観点に立てば、中国の秩序観に内在化されている中華思想や華夷秩序への視座、ワシントン体制が崩壊した1920年代後半～30年代の日本によるアジア秩序形成の企てと挫折、1960年代以降高度経済成長を遂げた日本のアジア・太平洋地域主義などに着目すれば、歴史的教訓を引出し比較分析することも可能だろう。

以上のような検討を通じて本シンポジウムは、中国にとっての北東アジア地域の位置づけを再確認し、北東アジアにおける新しい平和構想と秩序のあり方を問う手がかりとする。

プロジェクト代表 佐藤 壮

～プログラム～

3月5日 シンポジウム（一般公開）

オープニング

9:30～9:45

- 挨拶 本田 雄一（島根県立大学 学長）
王 逸舟（北京大学国際関係学院 副院長）
- プロジェクト紹介 佐藤 壮（プロジェクト代表）

基調講演

9:45～11:15

- 講演 王 逸舟（北京大学国際関係学院）
「中国が直面する新たな課題と可能性
～ 国内的側面を重視した一分析 ～」
- 宇野 重昭（島根県立大学）
「転換期の国際秩序と中国の「夢」
～ 一極の時代から多極の時代へ ～」
- 司会 李 曉東（島根県立大学）

セッション 1 21世紀におけるグローバル・アクター中国

13:00～14:20

- 報告 梁 雲祥（北京大学国際関係学院）
「新世紀のグローバル化趨勢における中国の外交選択」
- 佐藤 壮（島根県立大学）
「グローバル・アクター中国の対外政策とマルチラテラリズム」
- コメンテーター 福原 裕二（島根県立大学）
司会 李 曉東（島根県立大学）

セッション 2 中国外交の国内政治社会基盤とガバナンス

14:30～15:50

- 報告 雷 少華（北京大学国際関係学院）
「現代中国外交の国内政治要因」
- 江口 伸吾（島根県立大学）
「現代中国における政治社会改革と対外政策への
インプリケーション ～「新常态」の転換期を迎えて～」
- コメンテーター 唐 燕霞（愛知大学）
司会 林 裕明（島根県立大学）

セッション 3 中国の国際秩序観と歴史の教訓 16:00~17:20

報 告 張 紹鐸 (上海外国語大学)
「中米国交正常化における台湾問題の折衝 (1977~1979)」

石田 徹 (島根県立大学)
「近代日本外交における「学習」をめぐって」

コメンテーター 李 暁東 (島根県立大学)
司 会 豊田 知世 (島根県立大学)

総 括 17:30~17:50

総 括 中園 和仁 (広島大学)

司 会 村井 洋 (島根県立大学)

クロージング 17:50

閉 会 の 辞

3月6日 ラウンドテーブル (学内関係者のみ)

総 合 討 論 10:00~12:00

司 会 井上 厚史 (島根県立大学)

*ラウンドテーブルは研究者による専門的な討論を行います。このため、学内関係者のみの参加とさせていただきます。
予めご了承ください。

報告者等プロフィール（プログラム順）

基調講演



王 逸舟 (WANG Yizhou)

北京大学国際関係学院副院長・教授。元中国社会科学院世界経済・政治研究所副所長（1998年～2009年）。専門は、中国外交論、国際関係理論、国際制度論。主な著書は、『全球政治和中国外交』（世界知識出版社、2003年）〔邦訳は『中国外交の新思考』（天児慧・青山瑠妙訳、東京大学出版会、2007年）〕、『創造性介入：中国外交新取向』（北京大学出版社、2011年）、『創造性介入中国之全球角色的生成』（北京大学出版社、2013年）など。



宇野 重昭 (UNO Shigeaki)

島根県立大学名誉学長・名誉教授、同大学北東アジア地域研究センター名誉研究員、成蹊大学名誉教授。北京大学客座教授、復旦大学顧問教授、中国社会科学院日本研究所名誉研究員。東京大学大学院社会科学研究所修了、社会学博士。専門は、東アジア国際政治史、国際関係論、中国地域研究。日本国際政治学会理事長(1986～88年)、日本学術会議第16・17期会員(1994～2000年)、公立大学協会会長(2005～07年)などを務めた。主な著書は、『20世紀の中国—政治変動と国際契機』（共編著、東京大学出版会、1994年）、『内発的發展と外向型發展—現代中国における交錯—』（共編著、東京大学出版会、1994年）、『北東アジア学への道』（国際書院、2012年）、『アジアからの世界史像の構築—新しいアイデンティティを求めて—』（共編著、東方書店、2014年）など。

セッション1 21世紀におけるグローバル・アクター中国



梁 雲祥 (LIANG Yunxiang)

北京大学国際関係学院教授。北京大学国際関係学院博士課程修了、法学博士。中国中華日本学会理事、北京大学日本研究センター秘書長。専門は、国際政治学、戦後日本政治外交、北東アジア地域研究。早稲田大学、日本大学、新潟大学、成蹊大学などで客員研究員を務めた。主な著書は、『后冷戦時代の日本政治、経済と外交』（北京大学出版社、2000年）、『日本外交と中日関係』（世界知識出版社、2012年）、『国際関係と国際法』（北京大学出版社、2012年）など。



佐藤 壮 (SATO Takeshi)

島根県立大学大学院北東アジア開発研究科・総合政策学部准教授、同大学北東アジア地域研究センター研究員、同センター長補佐。一橋大学大学院法学研究科博士課程単位取得満期退学。専門は、国際関係論、東アジア安全保障、アメリカの対アジア太平洋政策。主な著書は、『転機に立つ日中関係とアメリカ』（共著、国際書院、2008年）、『衝突と和解のヨーロッパ—ユーロ・グローバリズムの挑戦』（翻訳、ミネルヴァ書房、2007年）など。



福原 裕二 (FUKUHARA Yuji)

島根県立大学大学院北東アジア開発研究科・総合政策学部准教授、同大学北東アジア地域研究センター副センター長。広島大学大学院国際協力研究科博士課程後期修了、博士（学術）。専門は、北東アジア国際関係史、現代韓国朝鮮政治外交論、朝鮮半島地域研究。主な著書は、『北東アジアと朝鮮半島研究』（国際書院、2015年）、『現代アジアの女性たち』（共編、新水社、2014年）、『領土という病』（共著、北海道大学出版会、2014年）、『たけしまに暮らした日本人たち』（風響社、2013年）、『核拡散問題とアジア』（共著、国際書院、2009年）、『日本・中国からみた朝鮮半島問題』（共編、国際書院、2007年）など。

セッション2 中国外交の国内政治社会基盤とガバナンス



雷 少華 (LEI Shaohua)

北京大学国際関係学院助理教授・同大学国際戦略研究院特約研究員。ユタ大学大学院博士課程修了、Ph.D.（政治学）。専門は、比較政治学、中国政治、アメリカ政府と公共管理。主な著書は、『Social Protest in Contemporary China, 2003-2010: Transitional Pains and Regimes Legitimacy (with Yanqi Tong, Routledge, 2013)』; “War of Position and Microblogging in China,” with Yanqi Tong, in Journal of Contemporary China, Vol. 22, No. 80, 2013 など。



江口 伸吾 (EGUCHI Shingo)

島根県立大学総合政策学部・同大学院北東アジア開発研究科教授、同研究科長、同大学北東アジア地域研究センター研究員。成蹊大学大学院法学政治学研究科博士後期課程満期退学、博士（政治学）。専門は、現代中国政治、政治社会論。主な著書は、『中国農村における社会変動と統治構造—改革・開放期の市場経済化を契機として—』（国際書院、2006年）、『日中関係史 1972～2012 I 政治』（共著、東京大学出版会、2012年）、『転形期における中国と日本—その苦悩と展望—』（共著、国際書院、2012年）、『Minerva グローバル・スタディーズ 3/中国がつくる国際秩序』（共著、ミネルヴァ書房、2013年）、『岩波世界人名大辞典』（共著、岩波書店、2013年）など。



唐 燕霞 (TANG Yanxia)

愛知大学現代中国学部教授・同大学院中国研究科教授。日中社会学会理事。立教大学大学院社会学研究科博士後期課程修了、博士（社会学）。専門は、社会学。主な著書は、『中国の企業統治システム』（御茶の水書房、2004年）、『グローバル化における中国のメディアと産業』（共編著、明石書店、2008年）、『転機に立つ日中関係とアメリカ』（共編著、国際書院、2008年）、『コーポレート・ガバナンスと企業倫理の国際比較』（共著、ミネルヴァ書房、2010年）、『チェンジン・チャイナの人的資源管理』（共著、白桃書房、2011年）、『転形期における中国と日本—その苦悩と展望—』（共著、国際書院、2012年）、『中国社会の基層変化と日中関係の変容』（共著、日本評論社、2014年）など。

セッション3 中国の国際秩序観と歴史の教訓



張 紹鐸 (ZHANG Shaoduo)

上海外国語大学研究生部副主任・副教授、島根県立大学北東アジア地域研究センター客員研究員。島根県立大学大学院北東アジア研究科博士後期課程修了、博士(社会学)。専門は、日米中政治外交史、東アジア国際関係史。主な著書は、『国連中国代表権問題をめぐる国際関係(1961-1971)』(国際書院、2007年)など。



石田 徹 (ISHIDA Toru)

島根県立大学大学院北東アジア開発研究科・総合政策学部講師。早稲田大学大学院政治学研究科博士後期課程満期退学。博士(政治学・早大)。専門は、前近代～近代日朝関係史、日本政治史。主な著書は、『近代移行期における日朝関係』(溪水社、2013年)、『転形期における中国と日本—その苦悩と展望—』(共著、国際書院、2012年)、翻訳書に金日宇・文素然『韓国・済州島と遊牧騎馬文化：モンゴルを抱く済州』(井上治監訳、木下順子共訳、明石書店、2015年)など。



李 曉東 (LI Xiaodong)

島根県立大学総合政策学部・同大学院北東アジア開発研究科教授、同学部長、同大学北東アジア地域研究センター研究員。成蹊大学大学院法学政治学研究科博士後期課程修了、博士(政治学)。専門は、日中関係史、政治思想史。主な著書は、『近代中国における立憲構想—嚴復・楊度・梁啓超と明治啓蒙思想—』(法政大学出版局、2005年)、『転機に立つ日中関係とアメリカ』(共著、国際書院、2008年)、『中国政治体制100年—何が求められてきたのか』(共著、中央大学出版部、2009年)、『転形期における中国と日本—その苦悩と展望—』(共編著、国際書院、2012年)など。

総 括



中園 和仁 (NAKAZONO Kazuhito)

広島大学大学院国際協力研究科教授。一橋大学大学院法学研究科公法専攻博士課程修了、法学博士。専門は、国際関係論。主な著書は、『香港をめぐる英中関係—中国の対香港政策を中心として—』(アジア政経学会、1984年)、『20世紀の中国—政治変動と国際契機—』(共著、東京大学出版会、1994年)、『香港返還交渉—民主化をめぐる攻防—』(国際書院、1998年)、『Minerva グローバル・スタディーズ3 中国がつくる国際秩序』(編著、ミネルヴァ書房、2013年)など。

司 会



林 裕明 (HAYASHI Hiroaki)

島根県立大学大学院北東アジア開発研究科・総合政策学部准教授、同大学北東アジア地域研究センター研究員。京都大学大学院経済学研究科博士後期課程単位取得満期退学、経済学博士。専門は、比較経済システム論、ソ連・ロシア経済論。主な著書は、『市場経済移行論』(共著、世界思想社、2002年)、『躍動する中国と回復するロシア—体制転換の実像と理論を探る—』(共著、高管出版、2005年)、『現代ロシア経済論』(共著、ミネルヴァ書房、2011年)など、訳書にJ. コルナイ『資本主義の本質について—イノベーションと余剰経済—』(共訳、NTT出版、2016年)など。



豊田 知世 (TOYOTA Tomoyo)

島根県立大学北東アジア開発研究科・総合政策学部講師、同大学北東アジア地域研究センター研究員。広島大学大学院国際協力研究科博士後期課程修了、博士(法学・学術)。専門は、環境経済学、開発経済学、エコロジカル経済学。主な著書は、『グローバリゼーションの中のアジア：新しい分析課題の提示』(共著、弘前大学出版会、2012年)、Climate Change Mitigation and International Development Cooperation (edited with Ryo Fujikura, Taylor & Francis, 2012)、『アジアの都市と水環境』(共著、古今書院、2010年)、『アジア巨大都市 街と水の風景：都市景観から水環境を考える』(共編著、新泉社、2010年)など。



村井 洋 (MURAI Hiroshi)

島根県立大学大学院北東アジア開発研究科・総合政策学部教授、同大学北東アジア地域研究センター研究員、米国・バード大学ハンナ・アーレント・センター客員研究員。成蹊大学大学院法学政治学研究科博士後期課程単位取得満期退学、博士(政治学)。専門は、西洋政治思想、ハンナ・アーレントの政治思想。主な著書は、『北東アジア研究と開発研究』(共著、国際書院、2002年)、『西周と日本の近代』(共著、ペリかん社、2005年)など。



井上 厚史 (INOUE Atsushi)

島根県立大学大学院北東アジア開発研究科・総合政策学部教授、同大学北東アジア地域研究センター長。大阪大学大学院満期退学後、韓国蔚山大学校人文大学に3年間留学。専門は、日本思想史および韓国儒学史。日本近世儒教研究から出発し、近年は朝鮮儒学研究、とくに李退溪の思想について研究を進めている。共著に、『西周と日本の近代』(ペリかん社、2005年)、『歴史のなかの「在日」』(藤原書店、2005年)、『正義とは』(岩波書店、2012年)、訳書に河宇鳳著『朝鮮実学者の見た近世日本』(ペリかん社、2001年)など。

シンポジウム事務局 島根県立大学 企画調整室

TEL 0855-24-2201 FAX 0855-24-2208

E-mail kikaku@admin.u-shimane.ac.jp